

## 保育職志望の要因分析

湯 地 宏 樹

### 目 的

保育者養成校の学生は、保育者になりたいという夢や希望をもって入学する。本大学では、保母資格証明書のほかに幼稚園教諭二種免許状を取得できるが、学生のなかには、資格や免許取得のための履修をあきらめたり、保育職以外に就職したりするものもいる。学生一人ひとりの願いはそれぞれだが、大学側が保育者になる夢をあきらめさせているとしたら、問題がある。授業や実習の在り方に問題はないだろうか。学生の悩みに真剣に耳を傾けられているだろうか。

そこで本研究では、短期大学生の保育職志望にはどのような要因が影響しているのかを調査データによって明らかにしていく。入学前と現在の進路志望の変化をさぐり、大学の授業や実習の問題等を明らかにすることが主要な目的である。本研究では、影響要因として、子ども時代の経験、大学の授業と実習の満足度、自己評価、対人関係を想定している（図1）。

### 方 法

本学2年次生106名を対象に質問紙調査を実施した。質問紙は合計94の質問項目からなり、主な内容は、子どもの頃の遊びや学習態度、入学前と現在の就職志望、大学の授業や実習の満足度、子どもに対する態度の自己評価等である。これらはすべて4件法を用いた。大学の授業の満足度、実習の満足度の項目については、森・大山・祐宗・河野・七木田・石橋・原野・廿日出（1994）を参考にした。そのほかに就職志望理由についても記述式で回答を求めた。

### 結果と考察

#### (1) 子ども時代の経験や学習

子ども時代の経験は保育職志望の理由の一つとなりうるだろう。例えば、幼児期に保育所あるいは幼稚園に通園していたという経験が考えられる。そこで、子どもの頃の経験や学習態度の特徴を

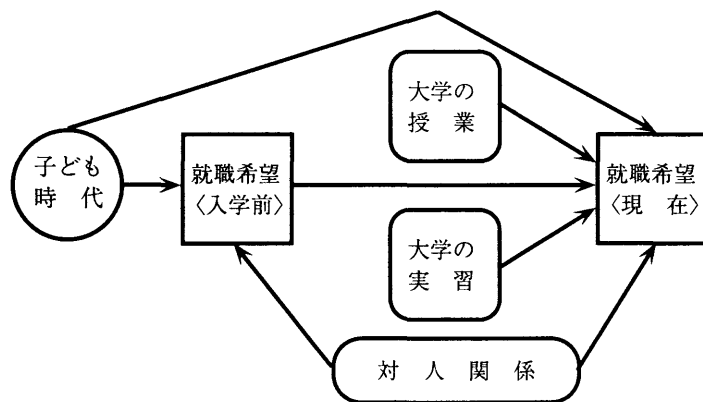


図1 保育職志望の要因モデル

さぐるために、データを要約して考察するのに有効な因子分析法を用いた。因子分析は因子軸の回転にバリマックス法を用いた。2因子から6因子抽出までの分析を繰り返し、それぞれに結果を得たが、最適解を得たのは、因子数を5つにしたときであった(表1)。

まず第1因子は、「幼稚園に通っていた」「保育所に通っていた」という項目だったので、「幼保通園」と命名した。幼稚園に通っていた割合は66.0%と保育所の40.6%よりも多い。

第2因子は、「絵を描くのが得意だった」「ものを作ることが得意だった」と「図画工作」に関する項目であった。絵を描いたりものを作ったりすることが得意なものは、それぞれ34.9%、41.6%であった。

第3因子は、国語、英語、読書に関する項目だったので、「文科系科目」と命名できる。保母養成校は文科系が得意な学生が多いという特徴を示す結果といえよう。

第4因子は、「音楽が得意だった」「ピアノを弾くのが得意だった」という項目だったので、「音楽ピアノ」と命名した。ピアノは41.6%、音楽が得意だったのは71.6%、さらに因子分析で除外した項目である「ピアノ・エレクトーンを習っていた」においても84.9%と、かなり高い数値になっている。「図画工作」と合わせて考えると、保育者としての技能の基礎を子ども時代からすでに備えて

いる。

第5因子は、「小さい子どもと遊ぶ機会が多かった」「子どもが好きだった」という項目だったので、「子ども好き」と命名した。それぞれ75.0%、90.6%という高い数値からもわかるように、保育者を志望する要因として、子どもが好きであることや、近所の小さい子どもたちなどと遊んだ経験がかなり影響していると考えられる。

## (2) 大学の授業・実習に対する満足度

大学の授業に対する満足度を4件法で尋ねた。その結果、「Yes」「どちらかといえばYes」を含めた割合をみると、「保育内容」91.5%が最も高く、「今日の子どもの問題」88.7%、「子どもについての基礎理論」86.8%、「教育課程・保育課程」84.7%、「教育・保育の基本原則」84.6%、「指導案・指導計画」84.0%が8割以上が満足している。それ以外では、「実践の保育場面に役立つ理論」77.4%、「今日の幼稚園・保育園の現実問題」72.6%、「実践の保育場面に役立つ技術」71.7%、「子ども文化」67.0%となっており、「園経営や制度」は45.3%と低かった。

大学の授業に対する満足度の特徴をさぐるために、因子分析法を用いたところ、因子数を3つにしたとき最適解を得た(表2)。それぞれ「保育基礎」「制度・文化」「実践・技術」と命名した。

実習の満足度に関する因子分析では、最適解は

表1 子ども時代の遊びや学習に関する因子分析の結果(バリマックス回転)

質 問 項 目	幼保通園	図画工作	文科系科目	音楽ピアノ	子ども好き	共通性
1 幼稚園に通っていた(66.0)	.95	-.07	.02	.04	.11	.93
2 保育所に通っていた(40.6)	-.95	.08	-.03	-.12	-.04	.93
6 絵を描くのが得意だった(34.9)	-.08	.91	.02	.04	.02	.83
7 ものを作ることが得意だった(41.6)	-.06	.89	.07	.02	.06	.80
14 国語が得意だった(53.8)	.01	.12	.80	-.05	-.25	.72
11 本を読むのが好きだった(56.7)	.08	.13	.75	.04	-.01	.59
12 英語が得意だった(32.1)	-.08	-.30	.66	.12	.28	.62
9 音楽が得意だった(71.6)	.01	.05	.01	.90	.01	.82
5 ピアノを弾くのが得意だった(41.6)	.14	.01	.07	.87	.12	.80
3 小さい子どもと遊ぶ機会が多かった(75.0)	.04	.02	.12	.02	.85	.75
4 子どもが好きだった(90.6)	.11	.06	-.20	.09	.76	.64
固有値	2.26	1.87	1.67	1.36	1.25	8.41
因子寄与率	20.5%	17.0%	15.2%	12.4%	11.4%	76.5%

注 質問項目( )内の数値は「Yes」「どちらかといえばYes」を含めた割合(%)。なお、次の質問項目は相関係数および因子負荷量等から削除した。8体を動かすことが得意だった(57.6) / 10ピアノ・エレクトーンを習っていた(84.9) / 13数学が得意だった(34.9)

表2 短期大学の授業満足度に関する因子分析の結果（バリマックス回転）

質 問 項 目	保育基礎	制度・文化	実践・技術	共 通 性
7 保育内容 (91.5)	.88	.13	.01	.80
1 教育・保育の基本原則 (84.6)	.79	.17	-.01	.65
9 教育課程・保育課程 (84.7)	.76	.16	.21	.64
10 指導演・指導計画 (84.0)	.64	-.22	.58	.80
3 子どもについての基礎理論 (86.8)	.52	.41	.13	.46
2 今日の子どもの問題 (88.7)	.50	.42	.16	.45
8 園経営や制度 (45.3)	.16	.81	.03	.68
11 子ども文化 (67.0)	.28	.71	.32	.69
6 今日の幼稚園・保育所の現実問題 (72.6)	.05	.66	.57	.77
5 実践の保育場面に役立つ技術 (71.7)	.10	.17	.91	.86
4 実践の保育場面に役立つ理論 (77.4)	.09	.48	.72	.76
固 有 値	4.69	1.77	1.10	7.56
因子寄与率	42.6%	16.1%	10.0%	68.7%

注 質問項目（ ）内の数値は「Yes」「どちらかといえばYes」を含めた割合（％）。

表3 短期大学の実習満足度に関する因子分析の結果（バリマックス回転）

質 問 項 目	子どもを知る	保育を知る	共 通 性
11 幼児の発する言葉を注意深くきくことができた(63.3)	.81	.12	.68
10 幼児の活動の様子をみることができた (33.1)	.71	.30	.60
6 幼児が実際にやりたいことや感じていることなどに気づくことができるようになった (61.3)	.67	-.09	.45
8 幼児の実態を加味した指導演を立案することができるようになった (26.9)	.56	.28	.39
4 幼児の心持ち・気持ちに共感することができた (82.1)	.56	.36	.44
2 幼児の性格から、その幼児がどのような行動を示すかを予測することができるようになった (50.0)	.17	.78	.63
1 すべての幼児の顔と名前を覚えることができた (74.5)	-.08	.77	.60
3 仲間集団に入れない幼児が集団に入れるきっかけをつくることができるようになった (42.9)	.37	.59	.49
7 子どもがますます好きになった (83.0)	.31	.47	.32
固 有 値	3.37	1.23	4.60
因子寄与率	37.5%	13.7%	51.2%

注 質問項目（ ）内の数値は「Yes」「どちらかといえばYes」を含めた割合（％）。なお、次の質問項目は相関関係および因子負荷量から削除した。幼児の発達の特性をしることができた (73.6) / 9 自分に自信をもてるようになった (30.2)

因子数を2つにしたときで、それぞれ「保育を知る」「子どもを知る」と命名した(表3)。保育を知るとは指導演の立案や子どもへの関わり、子どもを知るとは子どもの性格などの理解に関することがらであった。

### (3) 保育職志望に影響を受けた人物

影響を受けた人物に関する12の項目について因子分析を行った結果、2つの因子が得られ、「大学での出会い」「幼児期の出会い」と命名した

(表4)。すなわち、前者は大学や実習で出会った先生や友だち、後者は幼児期に通った園で出会った先生を含んでいた。とくに「幼稚園の先生」は39.6%と高く、幼少の頃の出会いが印象深いと考えられる。

### (4) 子どもに対する態度や生活態度の自己評価

子どもに対する態度の自己評価は、保育を知る子どもを知るに対して、「自分を知る」ということである。24の質問は「明るさ」「技能」「誠実」

表4 影響を受けた人物に関する因子分析の結果（バリマックス回転）

質 問 項 目	大学での出会い	幼児期の出会い	共 通 性
4 教育実習で出会った幼稚園の先生 (22.7)	.81	.13	.67
6 大学で出会った先生 (17.9)	.81	.03	.65
5 保育実習で出会った保育所の先生 (34.0)	.77	.03	.60
7 大学で出会った友だち (34.9)	.72	.18	.56
11 教育史上の人物 (3.8)	.51	.12	.28
10 家族の人 (32.0)	.48	-.26	.30
2 子どもの頃通っていた保育所の先生 (18.8)	.04	-.81	.66
1 子どもの頃通っていた幼稚園の先生 (39.6)	.24	.81	.71
固 有 値	3.07	1.35	4.42
因子寄与率	38.4%	16.8%	55.3%

注 質問項目( )内の数値は「Yes」「どちらかといえばYes」を含めた割合(%)。なお、次の質問項目は相関関係および因子負荷量等から削除した。3小中高校の(26.5)/8アルバイト先で出会った友だち・先輩(12.3)/9クラブ・サークルの友だち・先輩(3.6)/12テレビやマンガの登場人物(4.7)

表5 子どもに対する態度や生活態度の自己評価に関する因子分析の結果（バリマックス回転）

質 問 項 目	明るさ	技能	積極性	まじめ	寛容	朗読	礼儀	共通性
3 笑顔で人に対応する (90.5)	.80	.05	.06	.27	.05	-.01	-.02	.72
2 明るくはきはきしている (83.9)	.75	.25	.07	-.04	.29	.01	.17	.76
1 子どもと対等につきあえる (90.5)	.58	.14	.41	-.01	-.08	.37	-.28	.77
15 声が大きくよくとおる (64.2)	.53	.21	.07	-.24	.15	.28	.39	.66
20 没頭できる趣味をもっている (58.4)	-.08	.71	.11	.07	-.03	.31	-.10	.65
12 音楽的センスがある (38.7)	.31	.71	.09	.05	.07	-.11	.03	.64
4 機転が利く (46.2)	.25	.63	.12	.07	.31	-.21	.18	.67
13 手先が器用である (49.1)	.07	.60	.04	.09	-.01	.07	.11	.40
17 体を動かすことをいとわない (64.2)	.14	.01	.76	.02	-.12	-.09	.03	.62
18 研究会などに積極的に参加する (23.6)	-.06	.16	.75	.05	.17	.12	.12	.66
11 何事も積極的に参加する (53.8)	.19	.13	.68	.12	.31	-.01	.05	.64
8 人の話をよくきく (78.3)	.14	.02	-.04	.84	.06	.05	.11	.76
10 こつこつとまじめに努力する (54.8)	-.07	.24	.16	.65	-.04	.12	.05	.54
21 服装がきちんとしている (89.6)	.10	.02	.09	.58	.17	-.34	.04	.60
6 小さなことにこだわらない (59.4)	.12	-.02	.07	.12	.80	.11	-.22	.74
7 リーダーシップがとれる (44.3)	.21	.29	.23	-.04	.65	.13	.38	.78
14 朗読が上手である (42.9)	.15	.06	.01	.08	.24	.81	.15	.79
16 礼儀作法がきちんとしている (71.4)	.04	.09	.15	.25	-.10	.08	.83	.83
固 有 値	4.52	1.75	1.37	1.34	1.18	1.06	1.02	10.90
因子寄与率	25.1%	9.7%	7.6%	7.4%	6.6%	5.9%	5.7%	68.0%

注 質問項目( )内の数値は「Yes」「どちらかといえばYes」を含めた割合(%)。なお、次の質問項目は相関関係および因子負荷量等から削除した。5発想がユニークである(43.4)/9だれと仲良くできる(81.2)/19専門書をよく読む(17.1)

表6 入学前と現在の就職志望の変化(106名)

質 問 項 目	Yes		No	
	入学前	→ 現 在	入学前	→ 現 在
幼稚園に就職したい	61.7	→ 41.5	38.3	→ 58.5
保育所に就職したい	67.7	→ 71.7	32.3	→ 28.3
一般就職したい	12.8	→ 29.2	87.2	→ 70.8
進学したい	27.4	→ 22.7	72.6	→ 77.3
わからない	16.7	→ 28.3	83.4	→ 71.7

注 表中の数値はYesは「Yes」「どちらかといえばYes」、Noは「No」「どちらかといえばNo」を合わせた割合(%)。

「寛容」「朗読」「礼儀」と命名できるつの7因子が抽出された(表5)。とくに明るさに対する自己評価は高い。

#### (5) 入学前と現在の就職志望の変化

入学前と現在では、幼稚園志望は61.7%から41.5%と減っているのに対して、保育所は67.7%から71.7%と増えている。一般就職志望も12.8%から29.2%へと増えている(表6)。「わからない」が増えているのも特徴的である。このことから、入学前の志望動機は必ずしも持続しないことがいえる。すなわち、幼稚園への志望者が減っている分、一般就職や「わからない」ものが増える結果になっている。それは、在学中に保育職をあきらめたり、自分の進路に悩んでいるという事実をあらわしているといえよう。

#### (6) 保育職志望への影響要因の分析

幼稚園への志望者が減るのはなぜだろうか。その反対に、一般就職や「わからない」ものが増えるのは、大学の授業や実習に問題があるからなのだろうか。

そこで、重回帰分析によって、保育職志望への影響要因をさぐった(図2)。注にあるように、図の数値はパス係数である。パス係数は重回帰分析で算出された標準偏回帰係数( $\beta$ )で、簡略化のため有意なパスのみ示している。数値がマイナスの場合はマイナスの影響を示しており、数値が高ければ高いほど影響度が強いことを示している。

第1段階は子ども時代の出会いと経験、第2段

階は大学時代の出会いと授業・実習、第3段階は態度に関する自己評価である。

まず、幼稚園への就職志望には、幼児期の出会いの要因が大きく、入学前.44、現在が.28とそれぞれ有意であった。幼稚園志望の根底に幼児期に出会った先生が影響しているという事実は、幼稚園教師の夢はかなり早くからもっていることを示している。

現在の幼稚園への就職志望には、入学前の志望動機が.38と関係があるのは当然の結果だが、実習で「子どもを知る」経験が.24であったり、大学での出会い、すなわち、実習先の先生などとの出会いが.18と有意である。「自分を知る」では、明るさ、技能、積極性がそれぞれ.20、.22、.22という結果になっている。

つぎに保育所志望への影響要因についてみると、子ども時代から子ども好きだったが、入学前.27、現在が.32と関係があるのが特徴的である。現在の保育所への就職志望には、入学前の志望動機が.32と関係があり、幼稚園志望の結果と同様、実習における「子どもを知る」という経験が.23となっている。「自分を知る」では、明るさと積極」がそれぞれ.22、.29という結果になっている。

ここで、幼稚園志望と保育園志望との相違点をまとめてみると、幼稚園志望には、幼児期の出会いや大学の出会いといった、人との出会いが影響しているが、保育所志望にはそれがみられない。一方、保育所志望には、「子ども好き」と相関がみられるが幼稚園志望にはそれがみられない。し

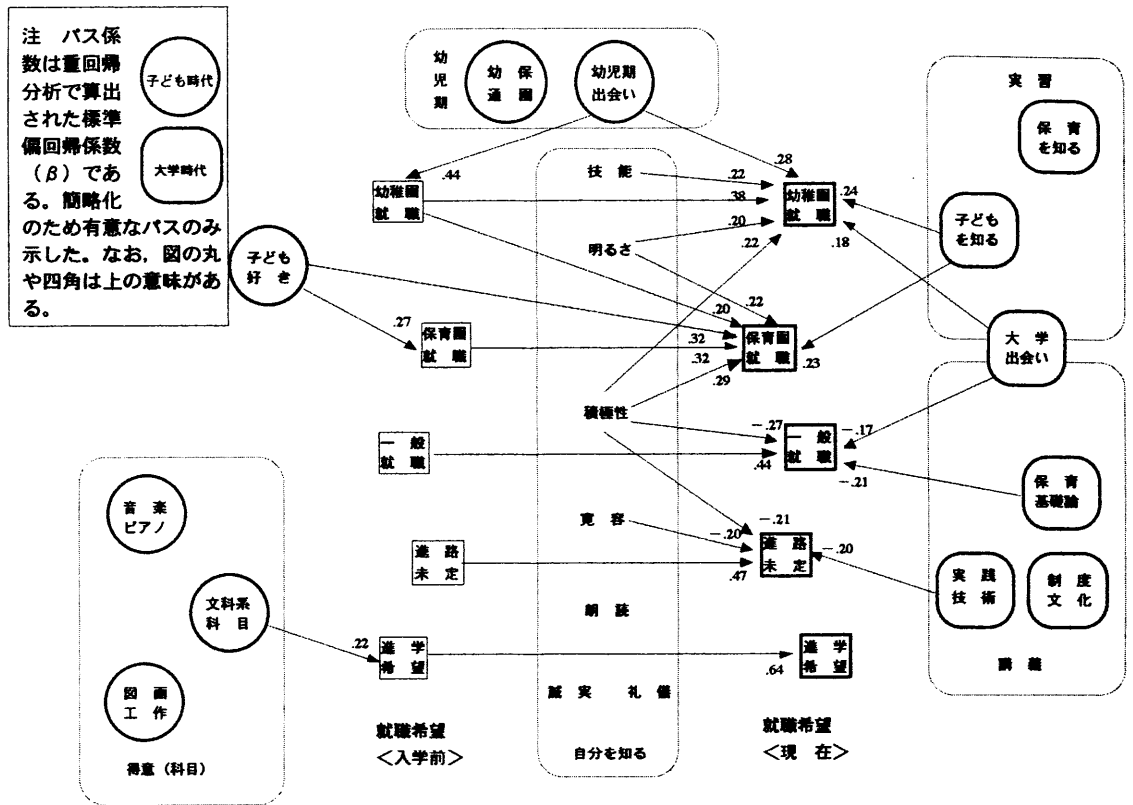


図2 保育職志望への影響要因に関するパス解析

たがって、幼稚園教師を目指すものは、モデルとなる人物に対するあこがれや影響があり、保育を目指すものは、真に子ども好きであるという内面的特徴を有しているといえるだろう。さらに、「自分を知る」ことにおいては、両者とも「明るさ」と「積極性」と相関がみられたが、幼稚園志望には音楽のセンスや手先の器用さといった「技能」が関係している。その点、学生たちは、幼稚園は保育所よりも「技能」が高く要求されていることを、実習を通して感じていることが予想される。また、入学前に幼稚園を志望していたものが、.20となっており、幼稚園から保育所への志望の変化がみられる。反対に、保育所から幼稚園への志望の変化は有意ではない。先に、入学前と現在とでは幼稚園への志望者が減っているという結果をみたが、それはそうしたことと関係があると考えられる。

入学前の進学希望へのパス係数が文科系科目.22にあらわれているように、文科系の科目が得意な人が進学を希望しており、それがそのまま現在の進学希望へ.64と意志がほとんど変わらない様子がうかがえる。

つぎに一般就職や進路未定の学生に注目したい。一般就職を希望するものの特徴をみると、入学前から一般就職を希望しているものが現在の一般就職へのパス係数が.44というように、はじめから保育職を志望していないことを物語っている。しかし、大学の出会い-.17、保育基礎論-.21、「自分を知る」における積極性-.27と、いずれもマイナスの数値になっている。すなわち、保育における積極性を欠き、授業等にも消極的である姿がみられる。進路未定のものたちも、入学前から進路が定まっていなかったことが.47という数値からもわかり、実践技術に関する授業-.20、「自

分を知る」における積極性-.21, 寛容-.20と、一般就職同様に、保育や授業等に満足していない姿がみられる。

## 結 論

保育者養成校の学生たちの保育職志望への要因を調査データによって明らかにした結果をまとめると次のようになる。まず第一に、学生のなかには、入学前から保育者になりたいという夢や希望をもっているものもいれば、はじめから一般就職や進学を希望しているものもいるし、進路がはっきりしないまま入学するものもいるという事実である。とくに、一般就職や進路未定のは、授業に対する満足度が低く、積極性を欠いている結果になっているといえよう。

第二に、実習において、明るさ、積極性、技能など「自分を知る」という経験が保育職志望へ影響している点である。自分に対するプラスの評価は保育職への自信につながっているし、その反対に自分に対するマイナスの評価が保育職をあきらめたり、進路未定につながっている。充実した実習が自分を問いただす機会になっている事実は、実習経験の重要性を指摘できる。

第三に、幼稚園志望と保育所志望とは、根本的な違いをみることができ点である。すなわち、幼稚園志望には人との出会いや音楽的センスや手先の器用さが関係しており、保育所志望には子ども好きであることが条件となっている。

以上のことから、保育職志望には、子ども時代の経験の要因、大学時代の実習の要因が影響として大きいことは明らかである。大学時代には、実習等を通して自分を見つめ直す姿がみられる。それは、つぎの資料に示した記述回答においても明らかであり、大学での授業や実習の経験が「自分探し」の機会になっていることを再認識する必要があるだろう。そうした意味でも、大学側としては、学生の夢や希望を大事にするとともに、特に夢をあきらめたり進路を決めかねたりしている学生への配慮が必要だといえよう。

## 引用・参考文献

- 森林・大山麻希子・祐宗省三・河野利津子・七木田敦・石橋尚子・原野明子・廿日出里美 1994 保育者養成カリキュラム開発のための基礎研究 幼年教育研究年報.
- 赤塚徳郎・森林・石橋千種・福井敏雄 1981 保育者の行動特性と幼児の集団行動の関連 広島大学教育学部紀要 第1部 第30号, 143-152.
- 東京都立立川高等保育学院生(豊田保編) 私が保育者になりたい理由 1996 萌文社.
- 高杉自子 1985 魅力ある保育者たち ひかりのくに.

(講 師)

## <資料 一記述回答一>

### 子どもが好き

・幼稚園の頃からずっと保育者になりたいと思っていました。子どもの頃、常に私のまわりに小さい子どもたちがいて、子守りをしたり遊んだりしているうちに、だんだん子どもの魅力を知っていきました(幼稚園・保育所希望)。

・私は長女ということもあってか、小さい頃から、私よりずっと年齢の低い子どもや赤ちゃんと接することが多くありました。その頃から、子どもの面倒をみるのが好きでした。私の子ども好きは、小学校の頃東京から遊びに来た、いとこの赤ちゃんが(東京に)帰るというだけで、大泣きをして学校を休んでしまったくらいでした(保育所希望)。

### 小さい頃からの夢

・私が保育園に勤めたいと思い始めたのは小学生のときで、仕事内容を知り、どうすれば保育者になれるかを具体的に考え始めたのは中学生からです。理由は、やはり保育園に通っていたときの保育さんの影響が大きいと思います。最初のうちは、ただ外側だけの、優しく明るいイメージであこがれていたけれど、大学に入って、いろいろ勉強したり実習で体験したりして、やりがいを強く感じました(保育所希望)。

・今思えば、私が保育者になりたいと思ったのは、幼稚園に通っていた頃からだと思う。担任の先生や他の先生が何気なくする動作や、体操、エプロンをしていた姿に何となく憧れていて、自分もなりたと思っていました。もちろん先生の苦勞などを実習で体験しましたが、子どもの頃からの夢や気持ちは、今でもあまり変わっていないと思います（幼稚園・保育所希望）。

#### 先生へのあこがれ

・私が保育者になろうと思ったのは、保育園に通っている頃からでした。私は担任の先生が大好きだったのを覚えています。担任の先生は、私の思いや考え方を優しく受け入れてくれた存在でした。5年間という長い期間を保育園で生活しましたが、毎日が楽しかっただけに、担任の先生へのあこがれが今でも強く残っています（保育所希望）。

・私が卒園のとき担任の先生に「あなたは明るくて笑顔が素敵だからいつでもそれを忘れずにね」と言われて、そのことがずっと胸に残っていました。転校の多かった私は、その先生の言葉を支えに、自分から友だちをつくろうとしました。こんな風に大人になっても心の支えになれるような、そんな印象を与えられるような人になりたいと思い、保母職を希望しました（保育所希望）。

#### 実習で自分探し

・1年生の頃、（観察）実習に行ったときは、子どもがますます好きになったのとは反対に、ものすごく大変だったので、「嫌だ」「こんなに苦しい職にはつきたくない」と一般就職を考えていました。しかし、2年になって、自分が指導にあたってみると、絶対に（幼稚園に）行きたい、この仕事につきたいと思いました。子どもの成長のなかの一時を子どもとともに過ごしたい、子どもの成長の手伝いをしたい、と思っています（幼稚園希望）。

・幼児教育科に進路を決めたとき、就職のことも同時に考えました。入学した頃は幼稚園の先生になろうと決めていました。理由は単純で夏休みがとれるということです。しかし、幼稚園の先生は、実際はそんなに甘くなく、大変であることを、実習で身をもって体験しました。自分の性格と照らし合わせてみて、保育所への就職を希望することを決めました。保育所での実習の経験も大きく影響していると自分では思っています（保育所希望）。

・高校の先生にもすすめられて大学に入り、その頃はやってみようという気持ちでした。しかし、この1年間、幼稚園、保育園、施設にそれぞれ実習に行き、やっぱり自分には向いていないと思うようになりました（一般希望）。

・一般を望んでいるのは、子どもたちを預かる責任があまりにも大き過ぎると感じたからです。これから保育者になろうと考えると、とても自信がなくて、私ではだめだと思います（一般希望）。

#### 人との出会い

・高校の頃、進路を決めるとき将来のことを考えた。幼稚園の先生や高校の時お世話になった先生方の影響がかなり強いと思う（幼稚園希望）。

・保育実習で担任の先生と1対1で話す機会があり、先生がいろいろな経験などを語って下さいました。そのとき、保育者はやりがいのある仕事だと感じました。また、先生が新任の頃に、子どもが全然ついてきてくれなかった話にとっても感激し、自分も保育者としてがんばろうという自信になりました（保育所希望）。